

MINOCYLINE NEBULIZING THERAPY OF DIFFUSED PANBRONCHIOLITIS

II. IMMUNOLOGICAL STUDIES AND ANALYSIS OF LYMPHOCYTES SUBSETS IN BRONCHOALVEOLAR LAVAGE FLUID OBTAINED FROM PATIENTS WITH DIFFUSED PANBRONCHIOLITIS TREATED WITH MINOCYCLINE NEBULIZING THERAPY

Yoshio Nishizawa

Nishizawa Clinic

The Department of Anesthesiology

Shiga University of Medical Science

Diffused panbronchiolitis (DPB) is a chronic obstructive lung disease, to which much attention has been paid because of its characteristic clinical features. Recently, it has been suggested that this disease is related to some immunological disorders or predisposition. In this respect, hyper IgAemia, the elevation of cold hemagglutinin titer, chronic sinusitis and HLA-antigen BW54 were found in many patients with this disease. In the previous paper, we reported the subsets of peripheral lymphocytes in patients with DPB, in order to determine whether immunological disorders exist at the lymphocyte level. As compared with healthy controls, in DPB cases the percentage of Leu-2a and OKT8⁺ positive cells decreased significantly, the percentage of Leu-3a and OKT4⁺ positive cells increased significantly and Leu-3a/Leu-2a ratio and OKT4⁺/OKT8⁺ ratio increased significantly. By minocycline (MINO) nebulizing therapy, these immunological abnormalities and symptoms were improved.

We investigated the change the subsets of T lymphocytes and IgA concentration in bronchoalveolar lavage fluid (BALF) obtained from patients with DPB after MIN-

NO nebulizing therapy (50mg/1times : 3times/week for 3months).

The results were following :

- 1) As compared with healthy controls, in DPB cases the percentage of Leu-2a and OKT8⁺ positive cells decreased significantly ($p < 0.001$), Leu-3a and OKT4⁺ positive cells increased significantly ($p < 0.001$) and Leu-3a/Leu-2a ratio and OKT4⁺/OKT8⁺ ratio increased significantly ($p < 0.001$).
- 2) Concentration of IgA in BALF increased as compared with healthy controls.
- 3) The lymphocyte subsets of DPB cases and hyper IgA in BALF obtained from patients with DPB tended to return to normal following MINO nebulizing therapy by ultra sonic nebulizer, running parallel with clinical improvement.
- 4) Some side effects (irritability of upper respiratory tract and others) appeared, however these side effects were slightly. These therapy was continuous.
- 5) Laboratory blood examinations were not affected by MINO nebulizing therapy without WBC, BSG and CRP.
- 6) Bacteria were eradicated in 72.1%.
- 7) Clinical efficacy of MINO nebulizing th-

erapy in patients with DPB was 67.7%.
8) Clinical usefulness was 58.8%.
These results suggested that MINO nebu-

lizing therapy by ultra sonic nebulizer
was useful tool for DPB treatment.

びまん性汎細気管支炎に対する Minocycline (MINO) 吸入療法の効果

II. 気管支肺胞洗浄液中 リンパ球サブセットの変化の研究

西澤 芳男

西沢クリニック

滋賀医科大学・麻酔学教室

〔緒　　言〕

びまん性汎細気管支炎 (Diffuse panbronchitis : 以下 DPB と略す) は終末細気管支から末梢部の呼吸細気管支に主病変を有する特異な慢性閉塞性肺疾患である。即ち、気道から肺実質の移行部とも言うべき特殊な性格を持つ領域に生じる慢性炎症を主病変とする病気である¹⁾。DPB 患者に於いては①寒冷凝集素価 (ACH) 高値の持続¹⁻³⁾ ②肉親内発生例が存在すること¹⁻³⁾ ③HLA 抗原高率に BW54 Ag を有すること¹⁻³⁾ ④血中 IgA 高値¹⁻³⁾ ⑤OKT4+ / OKT8+ / Leu-3a / Leu-2a (helperT / suppressorT) 比の有意の上昇が末梢血で認められること⁴⁾ 等から、BW-54 と DPB の疾患遺伝子が連鎖、平衡にあるため、BW-54 と密接に関連した分子が本症の発症に関与している可能性がある。

本症治療は従来 Erythromycin (以下 EM と略す) 内服が用いられていたが筆者らは DPB 対象菌が広範なことより Minocycline (以下 MINO と略す) 吸入療法を試み良好な治療成績をあげることに成功し、臨床症状、呼吸機能のみならず EC 同様血中 OKT4+ /

OKT8+ / Leu-3a / Leu-2a 比の改善を認めることを報告した⁴⁾。

今回、bronchoalveolar lavage (BAL と略す) を用い bronchialveolar lavage fluid (以下 BALF と略す) と DPB 患者よりえ、MINO 吸入前後における Tcell subset の変化に関し細菌学的効果と共に検討するとともに MINO の Tcell subset に対する効果がいかにして発揮されるかに關しても考察を加えた。

〔対照、材料、方法〕

1) 対照患者：厚生省特定疾患研究班の診断基準に合致し、SBS 合併あるいは既往があり CHA 上昇、IgA 増加、OKT4+ / OKT8+、Leu3a / Leu2a 高値をしめし、BW54 を有する 34 例 (男 : 女 = 23 : 11、年令 22 ~ 69 歳、平均年令 47.5 ± 4.4 歳) を DPB 患者とした。対照は healthy normal volunteers 34 例 (男 : 女 = 23 : 11、年令 22 ~ 67 歳、平均年令 48.6 ± 12.3 歳) であった。病歴上初診時 I、II、III 期それぞれ 3.26 例であった。

2) BALF 採取法

bronchofiberscope を挿入、右中葉 B4 ある

いは B5 の区域気管支あるいは悪区域気管支にウエッジ 1、滅菌等張生食塩水を 1 回に 50 ml 注入、吸入操作を行い、同操作を 4 回反覆、即ち系 200 の生理食塩水で洗浄し BWLF を採取し、4 °C 250g 10 分間遠心 1 細胞成分と液性成分に分離した⁶。

3) 細胞数と細胞分類

上記でえた細胞成分を一定量の phosphate buffered saline に浮遊させ Burger-Turk 算定板を用い総細胞数を算出した。細胞分類は細胞沈澱法を用い標本を作製、May-Giemsa 染色により行った。

4) リンパ球 subpopulation の分析

neuramidase 処理羊赤血球を用い、37 °C で反応する T 細胞検出用指示細胞には洗浄羊赤血球を、B 細胞検出にはウサギ抗羊免疫グロブリン被覆 immunoplates を使用、microplate 法で T、B 細胞を分析した。Tcell subset は monoclonal antibody とし OKT8 + 、OKT4 + (Ortho 社製) Leu-3a 、Leu-2a は (Dickinson 社製) を用いて分類した。

5) 液性成分の分析

BALF 上清中蛋白量は Lowry、O、H の方法で immunoglobulin は nephelometric immunoassay 法で測定した。

6) MINO 吸入療法

前報同様 8 % Lidocaine 吸入で局所麻酔後 200 μg / の Beclomethasone dipropionate を吸入させ咽喉頭刺激感を緩和した後 54 °C の滅菌蒸留水 35ml に 50mg の MINO を溶解 Ultrasonic nebulizer で吸入を 1 週 3 回 3 ヶ月間つづけた⁴)。

7) 臨床検査の変化

各個人により MINO 使用前においても臨床検査値は異なるため投与前値を 100 と 1 投与終了後値をこれに対する % of control として示めした。

8) 副作用

詳細は問診でききもらさずチェックした。

9) 菌の消長

喀痰培養を同定し行った。

10) MINO 吸入療法の有効性と有用性

異常の結果にもとづき MINO 吸入療法の有効性をもとめ、副作用、臨床検査値の変化を加味して MINO 吸入療法の有用性を判定した。

〔結果〕

1) BALF 中の細胞分画

BALF 中 % 細胞回収率は健常人、DPB 患者それぞれ 62.3 ± 10.2 % 、 61.8 ± 11.2 % であった。Recovered total cell counts は健常者、DPB 患者を比較してみると、DPB 患者で有意に高かった。

(以上結果省略)

BALF 中白血球分画をもとめると健常者は Macrophages 85.7 ± 9.2 % 、 Lymphocytes 13.1 ± 9.8 % 、 Neutrophils 0.9 ± 0.5 % 、 Eosinophils 0.3 ± 0.3 % 、 Basophils 0 ± 0 % であった。DPB 患者では Macrophages 8.8 ± 3.2 % 、 Lymphocytes 4.3 ± 0.9 % 、 Neutrophils 76.7 ± 10.3 % 、 Eosinophils 10.2 ± 9.8 % 、 Basophils 0 ± 0 % と健常者に比較し、 Macrophages 、 Lymphocytes の減少と Neutrophils 、 Eosinophils の増加が認められた。MINO 吸入療法後の DPB 患者の BALF 中白血球分画は Macrophages 74.1 ± 13.4 % 、 Lymphocytes 6.2 ± 3.1 % 、 Neutrophils 15.6 ± 4.8 % 、 Eosinophils 4.1 ± 2.4 % 、 Basophils 0 ± 0 % と MINO 吸入療法により Macrophages 、 Lymphocytes の増加、 Neutrophils 、 Eosinophils の増加と健常正常人 BALF 中の白血球分画の percentage に近づくことがわかった。(Table1)

DPB 患者 MINO 吸入療法前後の BALF 中白血球分画の変化を Table1 にしめした。DPB 患者治療前では Leu-2a cell 13.18 ± 5.24 % 、 Leu-3a cell 62.68 ± 10.24 % 、 Leu-3a / Leu-2a 比 1.66 ± 0.72 であった。MINO 吸入療法後では Leu-2a cell 13.18 ± 5.24 % 、 Leu-3a cell 62.68 ± 10.24 % 、 Leu-3a / Leu-2a 比 1.66 ± 0.72 であった。

- 8 -

日本耳鼻咽喉科感染症研究会会誌 第7巻 第1号

	Normal volunteers (%)	Patients with DPB	
		Pre-treatment of MINO (%)	Aftertreatment of MINO (%)
Macrophages	85.7 ± 9.2	8.8 ± 3.2	74.1 ± 13.4
Lymphocytes	13.1 ± 9.8	4.3 ± 0.9	6.2 ± 3.1
Neutrophils	0.9 ± 0.5	76.7 ± 10.3	15.6 ± 4.8
Eosinophils	0.3 ± 0.3	10.2 ± 9.8	4.1 ± 2.4
Basophils	0 ± 0	0 ± 0	0 ± 0

Table1. Percentage of various WBC in BALF from healthy subjects and patients with DPB.

入療法治療後には Leu-2a cell 24.12 ± 7.62 、Leu-3a cell $40.06 \pm 11.16\%$ 、Leu-3a / Leu-2a 比 1.66 ± 0.57 であった。Leu series においても MINO 吸入療法により OKT series と同様の結果がえられた。(Fig1)

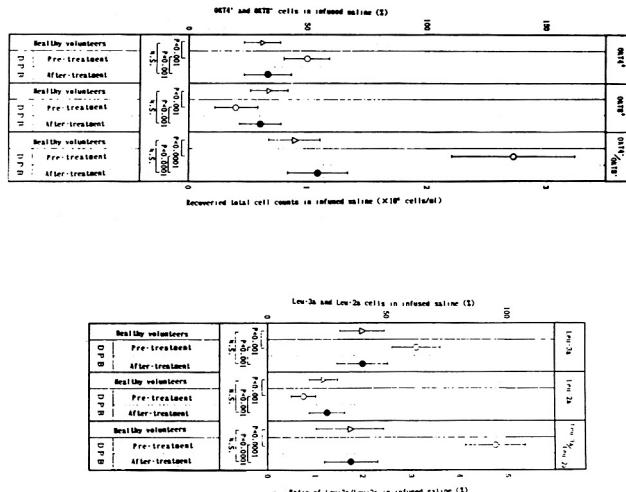


Fig1. The change of subpopulation of T-cells in BALF determined by monoclonal antibodies against cell surface antigens on these cells from patients with DPB treated with MINO or healthy subjects

3) MINO 吸入後の BALF 中 IgA 量

健常人 BALF 中の IgA 量は $4.0 \pm 1.1 \mu\text{g}$ /、IgA / albumin 比は 0.113 ± 0.05 であった。DPB 患者では $72.6 \pm 26.2 \mu\text{g}$ /、 0.34 ± 0.120 、MINO 吸入療法後では $13.2 \pm 7.9\%$ 、 $0.197 \pm 0.087\%$ と変化した。即ち、DPB 患者 BALF 中 IgA 値は MINO 吸入療法により健常者に近づいた。(Fig2)

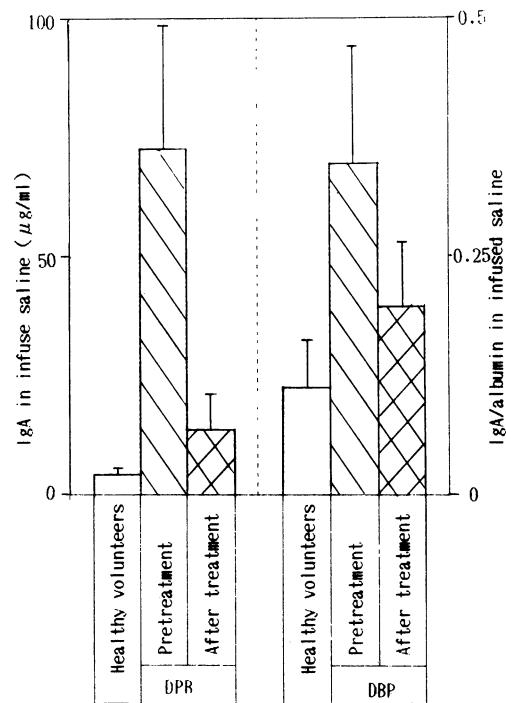


Fig2. The change of IgA concentration in BA LF from patients with DPB treated MINO or healthy subjects

4) MINO 吸入療法での BALF 中菌の消長

MINO 吸入療法での BALF 中菌の消長は菌消失率 72.1%、菌交代現象で新たに 9 菌が出現した。(結果省略)

5) MINO 吸入療法による副作用と臨床検査値の変化

MINO の吸入療法中副作用は MINO の PH 特異性に基づく咽喉頭刺激感、咳嗽等 34 例中 7 例 (20.6%) に認められたが MINO 吸

入療法を中止するに到るような重篤な副作用は認められなかた。(結果省略)

臨床検査上も WBC、ESR、CRP の改善の他、肝機能、腎機能、造血作用に MINO 吸入療法は何ら影響を及ぼさなかった。(結果省略)

6) MINO 吸入療法の DPB に対する有効性

上述の結果より DPB に対する MINO 吸入療法の有効性は著効 9 例 (26.5 %)、有効 14 例 (41.2 %) やや有効 7 例 (20.6 %) 無効 3 例 (8.8 %) 悪化 1 例 (2.9 %) と有効以上 23 例 (67.7 %) であった。(結果省略)

7) MINO 吸入療法の DPB に対する有用性

副作用や臨床検査値に与える影響、有効性からまとめた DPB に対する MINO 吸入療法に対する有用性は極めて有用 5 例 (14.7 %) 有用 15 例 (44.1 %) やや有用 7 例 (20.6 %)、有用性なし 7 例 (20.6 %) と有用以上 20 例 (58.8 %)、やや有用以上 27 例 (79.4 %) でありその有用性は咽喉頭刺激感や咳嗽等 MINO の PH に基づく副作用が除かれれば高率になるものであった。(結果省略)

[考 察]

DPB 患者に対して吸入療法に用いる抗生 物質として MINO を用いた理由は前報の考 察を参考にされたい⁴⁾。また、MINO 吸入療 法の問題点である MINO の PH 特異性からくる 咽喉頭刺激感等の副作用、このために生じる MINO 吸入療法の効果率と有用性の差を どの様に考え、解消するかに関しても前報の 考察に詳しく述べたので参考されたい⁴⁾。さら に、DPB に対する MINO 吸入療法の効果、 有用性に関しては前報を参照されたい⁴⁾。

今回の考察では DPB 患者 BALF 中 T 細胞 subset の MINO 吸入療法による改善効果の 点から DPB、あるいは DPB に極めてよく合併する SBS の免疫異常が一次的なものか、感 染に基づく二次的なものかに関して考察を加 えてゆきたい。

DPB に関して、ACH 高値、高 IgA 血症、 RAHA 値、Tuberculin reaction 陽性¹⁻³⁾ 等より免疫異常を示唆する報告があること。、 我国のインシュリン依存性糖尿病、原因不明 の肝硬変、Vogt・小柳-原田氏病等自己免疫 疾患との関連性が示唆されている BW-54 抗 原を有する場合に DPB が有意の高頻度でみ とめられることが明らかとなってきた¹⁾。B W-54 抗原はモンゴロイドに特異的な組織適 合抗原であること、DPB が日本、韓国、中 国人に多く欧米での報告がないこと等から組 織適合抗原 BW-54 を介して免疫異常を生じ ることが DPB の免疫異常の原因ではないか と考えられる¹⁾。

実際、先に報告したように DPB 患者血中 の T 細胞 subset において OKT4⁺、Leu-3a c ell、即ち、helper Tcell が増加し、OKT8⁺、 Leu-2a cell、即ち、suppressor Tcell が減少 しており⁴⁾、膠原病と類似の変化をしめして いる⁴⁻⁷⁾。

しかし、一方、伝染性单核症¹⁰⁾ や結核¹¹⁾ において、OKT4⁺ / OKT8⁺ 比、Leu-3a / Leu-2a 比の上昇が治療により低下した事実 がある。DPB の場合も erythromycin 治療に より Leu-3a / Leu-2a 比が低下し正常に近づ くことが報告されている⁵⁾。

このことから、MINO 吸入療法後に認めら れた OKT4⁺ / OKT8⁺ 比、Leu-3a / Leu-2a 比上昇の正常化も感染に基づく T 細胞 subset の変化が MINO 吸入による菌消失のために 生じたのではないかと考えられる。しかし、 前回の報告⁴⁾ では MINO 吸入療法後の血中 T 細胞 subset の変化をみたものである。MI NO は吸入療法では T 細胞 subset に変化を与 えるだけの血中濃度の上昇をしめさないこ とは先に報告した¹²⁾。このことから、血中 T 細 胞 subset の変化をみただけでは DPB 患者末梢血中の T 細胞 subset の MINO 吸入療法後 の改善は感染症が基盤にあり二次的に生じた

T 細胞 subset の変化を MINO 吸入療法が改善したとしかいえない。即ち、DPB の基本は感染であり、免疫異常は二次的なものであり、MINO は免疫担当細胞そのものに作用するのではなく、感染をおさえた結果として T 細胞 subset の改善をもたらしたと考えられる。

しかし、DPB に erythromycin を内服で用いた場合、単に感染症をおさえるだけでなく、本剤は免疫担当細胞にも作用し T 細胞 subset の比をかえると言われている⁹⁾。MINO の場合、同様に免疫担当細胞に作用するか否かは我々のプロトコールが MINO が血中へ移行しない吸入療法を用いているだけに考えにくかった。そこで、BALF 中の変化を検討した。BALF 中の白血球分画の DPB における変化を他の気道細菌感染症と比較すると特異性がある。しかも MINO 吸入療法によりこれらは健常人に近づいた。(Table1) このことから① DPB には疾患特異的な免疫異常があるのではないか、② MINO は感染菌のみならず免疫担当細胞にも何らかの直接的作用をするのではないかということが考えられる。したがって、BALF 中の T 細胞 subset の MINO 吸入療法後の正常化 (Fig2) は MINO が bronchus associated lymphoid tissue に直接作用したことに関与しているのではないかと考えられる。また、BALF 中の IgA 濃度の MINO 吸入療法による改善 (Fig2) も MINO が感染菌に直接作用した二次的結果的に T 細胞 subset に直接作用し helper Tcell が減少し IgA 産生 B 細胞への分在増殖が抑制をうけた結果とも考えられる。

今後、MINO 吸入療法による免疫担当細胞の変化、in vitro での実験をかさね、臨床面、基礎面から DPB の原因に免疫異常が存在するのか否かを検討し、SBS にも免疫異常があるのか即ち、SBS 中 DPB を発症するものとしないものの間に免疫異常の差があるのか否

かについても検討を加えてゆきたいと考えている。

〔文 献〕

- 1) 本間正臣：びまん性汎細気管支炎、代謝 23 : 735-749, 1986
- 2) 本間正臣：びまん性汎細気管支炎、日胸疾会誌 13 : 385-398, 1975
- 3) 平田健雄他：びまん性汎細気管支炎の免疫学的考察、日胸 38 : 93-95, 1979
- 4) 西澤芳男：慢性副鼻腔炎に合併したびまん性汎細気管支炎に対する Minocycline (MINO) 吸入療法効果の検討、日本耳咽喉科感染症研究会誌 6 : 11-18, 1988
- 5) 杉山幸比古他：びまん性汎細気管支炎患者における末梢血リンパ球 : subset の検討：日胸疾会誌 22 : 1116-1121, 1984
- 6) Raynauds, H. Y. : Analysis of cellular and protein content of bronchoalveolar lavage fluid from patients with idiopathic pulmonary fibrosis and chronic hypersensitivity pneumonitis. J. Clin. Invest. 59 : 165-175, 1977
- 7) Morimoto, C. et al : Alteration in immunoregulatory T cell subsets in active SLE. E. J. Clin. Invest. 66-1171-1177, 1980
- 8) Morimoto, C. et al : Auto antibody to an immunoregulatory inducer population in patient with JRA. J. Clin. Invest. 67 : 753-763, 1981
- 9) Morimoto, C. et al : Comparison T and B cell markers in patients with Sjogrens syndrome and SLE. Clin. Immunol. Immunopathol. 22 : 270-276, 1982
- 10) Da Waele, M. et al : Characterization of immunoregulatory T cells in EBV-induced fulminant mononucleosis by monoclonal antibodies. N. Eng. J. Med. 304 : 406-410, 1981
- 11) 三上理一郎：臨床免疫学的にみた結核発

病の要因：結核：59, 39-49, 1989
12) 西澤芳男：慢性副鼻腔炎に対する Minoc-

ycline の鼻吸入療法の効果：日本耳鼻咽喉
科感染症研究会会誌, 4 : 33-38, 1986

質 疑 応 答

質問 大谷巖（福島医大）
抄録にはリンパ球サブセットの変化は MI
NO の作用によるとありますか、これは細菌
感染を予防した結果と解釈してよろしいです
か。

質問 小川浩司（北里研究所病院）
キシロカイン吸入量はどのぐらいか。

応答 西澤芳男（西澤クリニック）
ミノサイクリンは直接リンパ球サブセット
に直接影響を与えないと考えている。
応答 西澤芳男（西澤クリニック）
8%キシロカイン 1ml を使用。咽喉頭刺激
感は個人差があった。